

令和4年度 第1回太子町地域公共交通会議概要

日 時：令和4年7月15日（金） 午後2時30分～午後4時30分

場 所：太子町役場 万葉ホール

議 題

- (1) 会長・副会長の選出について
- (2) コミュニティバスの愛称について
- (3) お買い物便イベントの実施結果について
- (4) 金剛バス利用実態調査結果について
- (5) コミュニティバス運行実績について
- (6) その他

(1) 会長・副会長の選出について

会長は小川委員、副会長は齋藤委員が選任された。

(2) コミュニティバスの愛称について

(資料1に基づき、事務局より説明)

小川会長 太子町コミュニティバスの呼称は、ホームページ等においては、既に可能な範囲で「のってこバス」に変えてもらっている。一度ホームページも確認いただけたらと思う。

それから、このバスの情報が当初ホームページ上で、トップの一番大きな欄に載っていたのだが、この欄は通常、イベント情報などを載せるところなので、ホームページを見た人がバスの情報を見つけにくいということがあった。そこで、ページの下の方にバナーを設定し、そこから詳細情報のページに進むように改良されているので、追加で報告させてもらう。

また、ホームページを見て、お気づきのことがあれば、事務局に意見を寄せていただくか、また次回に発言いただければと思う。

(3) お買い物便イベントの実施結果について

(資料2に基づき、事務局より説明)

佐藤委員 このイベントはお買い物便を本格運行する前提で実施していると認識していた。だから今回の調査を受けて、結果の説明だけでなく、お買い物便の正式スタートをいつ行うのかなど、見通しについても説明してほしい。

事務局 これまでの検討において、こちらに商業施設ができることに合わせ、コミュニティバスも含め、公共交通全体の利用率を上げることを目指して、利用喚起策の立案、推進を主眼として取り組んできている。それで、この便の正式スタートについては、この会議の中でも議論されてきたが、実際のところハードルが高い状況である。金剛自動車がこのルートを運行しているので、共栄共存の方法を考えていかなければならないためである。もし正式にスタートさせるとしても、段階を踏んで取り組んでいく必要がある。

そこで、現状ではまずは公共交通全体およびコミュニティバス全体の利用率を上げるために利用喚起策について検討し、取り組みを進めているところである。

佐藤委員 このお買い物便イベントで利用に関する調査をしたのに、正式な運行はしないという結果になるのなら、何のためのイベントだったのか。

事務局 資料のまとめにも記載のあるとおり、今後検討を進める必要はあると思う。冒頭の会長の話にもあったが、今回はコロナの第7派が来ているとも言われている。この公共交通会議は令和2年6月から始まり、ちょうど2年が経過したが、コロナという緊急事態もあり、きちんとしたデータが取れていないということもある。ついては、この部分についても引き続き検討が必要であると考えている。

佐藤委員 できるだけ早くお買い物便をスタートすることを要望したい。

西田委員 検討するということが、お買い物便を走らせるためにずっと考えていくということか。その場合は、コミュニティバスと金剛バスの2パターンがあるということか。

事務局 ここにはすでに民間の金剛バスが走っているので、金剛バスの中でどういう動きができるかを検討するのも、公共交通のあり方を考える上で一つの方法だと思うし、金剛バスと共存しながらコミュニティバスを走らせることも一つの方法だと思う。後者の場合には事業者との協議が必要になる。また国からのアドバイスを受けながら進める形になると思う。

西田委員 今後も検討していくということだが、それならば、コミュニティバスを水曜日に

このルートで運行することを継続して、どれだけ利用があるかというデータを蓄積したほうが、検討が前に進みやすいと思う。それと今回はバス停を役場に設置して、利用者を役場に集中させて運行したのだが、聖和台の人などは、わざわざ役場まで一旦出て、乗り換えて行かなければならないということがあった。そこで、今後検討を進める中で、バス停を増やす形での実験はできないか。

事務局 こちらの商業施設へのルートのことか。

西田委員 商業施設へ行くコミュニティバスを走らせるのに、金剛バスが通っているところで乗降するのは難しいということがあって、今回直通便を走らせたと思うが、直通で走らせたところ今回のような結果が出て、では今度はバス停を一つ増やしたらどうなるか、二つ増やしたらどうなるかといったことも、今後の検証の中に入れていこうと考えているか。それとも金剛バスが走っている限り、バス停は被らないようにしていかないといけないのか。こうしたバスを走らせる上で、どのような制約がどれだけあるのかを聞きたい。

事務局 いろいろなアクションの仕方、チャレンジの仕方があると思う。そこについては先にも申し上げたが、今の困難な状況もある程度見定めつつ、会長や皆さんとも相談しながら、どういったトライの仕方、検証の仕方が好ましいのか、引き続き考えていきたと思っている。

西田委員 では、今回の実験は期間が1カ月であったが、今度は1年程度の実験をしてもらえるのか。

事務局 それについては、このような場で議論をして決めて行きたいと思う。

西田委員 もう1点。この実験の最終便の商業施設行きの便は、帰りの便がないので利用者はいないのかと思ったが、わずかではあるものの利用されている。この場合はどのようにして帰って来るのか。

事務局 それについては、梅川橋に金剛バスのバス停があるので、それを利用して役場に戻っているか、喜志駅のほうに出ているということだと思う。

奥埜委員 商業施設への直通便が運行されるイベントの経過を知らないのだが、商業施設以外でこうしたイベントを実施する計画はあるのか。

事務局 事務局のほうでそうした予定は持ち合わせていない。ただ、今日の会議で、皆さんから提案があれば、それを踏まえて考えていく。

奥埜委員 では、検討してほしいところとして道の駅がある。道の駅には土日祝しかコミュニティバスが通っていないので、できれば平日にそうしたイベントを実施してほしい。

高谷委員 イベントが実施された商業施設への路線は、金剛バスと競合するということだが、それ以外に金剛バスと競合しないという意味では、バイパスを利用してはどうだろうか。住宅地しかないので、利用者が少ないのではという見方もあるが、その路線があれば比較的商業施設へも行きやすくなるし、途中にバス停ができれば、葉室などの人も出て来きて利用できるのではないかと思う。また、総合体育館についても現在路線がないので、コミュニティバスの路線を検討してほしい。

小川会長 私は本日会長に任命されたので、会長としてこうした発言をするのはふさわしくないかもしれないが、一委員として発言させてもらおうと、コミュニティバスが運行を始めて2年近くが経ち、その間にコロナが発生した。とはいえ、コミュニティバスを走らせようと議論していたときと比較すると、地域公共交通に関して緊張感が失われてきていると非常に感じる。だからもう少し気を引き締めていかなければいけないと思っている。それでこのカインズ、ラ・ムーへの買い物便については、改善しないと町民のQOL（生活の質）の向上には繋がらないので、これは絶対に実行しないといけない。ただ、金剛バスとの関係もあり、またバスの大きさ、交差点の形状、バス停の位置など、様々な問題があるので、事務局にはどこに何の問題があるのかのリストを至急作ってもらいたいと思う。商業施設を発着するバス路線の運行ができないかということは、約2年前から議論してきているので、事務局には一定の情報の蓄積があると思うので、それを整理してもらいたい。

私はこれまで一貫して関わってきているので、どこにネックがあるかなどは理解しているが、事務局は異動のたびに担当者が変わり、十分に引き継ぎができていない関係で、交差点の問題やバス停設置の問題について、把握できていない状況だと思うので、その整理を至急してほしい。その中から着手できるものの一つずつ取り組んでいくことをしていかないといけない。場合によっては、事務局の力が及ばなければ、この地域公共交通会議にお願いすることもあるかもしれないし、場合によっては、田中町長の名前を借りて攻めていかないといけないこともあるかもしれない。

先ほど報告のあった実験結果を見てみると、コミュニティバス 1 ヶ月間の利用者に占める買い物便の利用者の割合が高くなっている。ということは、この買い物便を一定本格運行できれば、町全体としてコミバスの利用実績も大きく上がることになるので、その観点からも実施すべきだと思う。もし検討の中で、コミバスでなく金剛バスが運行できるということになれば、金剛バスにお願いしたらよいと思う。地域公共交通という括りの中で、カインズ、ラ・ムーにどうすれば町民がアクセスしやすくなるかということ、今期の最大の課題としてもよいのではないかと、私は考えている。

西田委員 会長のおっしゃるとおり、問題点を整理してもらいたい。資料 2 に載っている写真は、カインズの前までバスが入っているが、これは無料だからここまで入ってこれるのだと思う。コミュニティバスの場合、運賃を取るのであれば、運輸局や警察の関係で縛りが出てくると思う。そうした細かい部分を詰める必要がある。もし金剛バスが動くのなら、それを踏まえた検討が必要になるし、金剛バスが無理なら外して考えることが必要になり、そうしたことをしっかり整理できないと前進できないので、事務局には対応をお願いしたい。

小川会長 カインズ、ラ・ムーがバス停の場所を確保してくれたら、バスが乗り入れるのも可能だと思う。私に関わっている河南町のコミュニティバスもオークワに乗り入れている。だから、カインズ、ラ・ムーの方とも相談していかないといけない。あちらのいわゆる店長もずっと同じ人ではなく、入れ替わっているので、以前アプローチをしたときには厳しい反応だったとしても、今回アプローチをしたら意外に前向きな対応をとってくれるかもしれない。だから粘り強く、店長や担当者が変わったら改めて交渉してみるのも、効果的かもしれない。必要であれば私も手を貸すので、どこにどういう課題があるのかを整理し、手を着けられるものから取り組んでいき、もし交差点や信号の設置が必要であれば、そうしたことも考えていかないといけないと思う。来月再来月にすぐに答えが出る問題でもないのだが、何もしなければ 1 年後 2 年後にも何も起こらないので、できることから進めていき、最後に一番時間のかかるものは時間がかかっても仕方がないので、皆さんの協力を仰ぎながら進めていくという形にしたいと考えている。それと、総合体育館についてだが、ここへのバス路線の話が従前からこの会議で出ている。私は以前から太子町を散策したり、観光で来ている方にヒアリングしたりしているが、万葉の森へ行かれている方が結構多いと感じている。そこは火曜日が定休日、土日は営業しているので、土日祝にある程度需要がまとまっているのであれば、総合体育館と合わせてバスを運行することも検討するに値すると思う。利用がまとまっていなくて、1 便に 1 人くらいがバラバラに乗車する

のでは、公共交通としては成り立たないが、例えば日曜日の午前中に利用者がまとまっているなどの状況であれば、そうしたところへの対応は必要だといえる。太子温泉も貴重な観光資源なので、そこも合わせて考えてもよいかもしれない。太子温泉もバスを持っているので、町のバスと太子温泉のバスを有効活用し、協力して何かできないかと、個人的には考えているところである。委員の皆さんからもご意見をいただければと思う。

(4) 金剛バス利用実態調査結果について

(株かんこうより、資料3に基づいて説明)

西田委員 公共交通で観光客を呼び込むという考えもあったと思う。コロナの影響でその点について判別しにくくなってしまったが、休日の上ノ太子駅も喜志駅も利用があまり伸びないところを見ると、バスというのは地域住民が町内を移動するのに使われるものであって、外から来る観光客が利用するものではないという結果になっているということか。

事務局 過年度との比較というところにコメントが載っているが、平日の利用は若干だが伸びが見られている。具体的には、2020年度は合計で605人だった利用者が、2021年度には622人と若干伸びている。これに対して休日の部分は、2020年度に合計で304人だった利用者が2021年には285人に減ってしまっている。コミュニティバスのほうはPR効果もあり、増加傾向にあるのだが、観光においては、もうひと頑張りする必要があると考えている。

西田委員 金剛バスの運転手の休憩所がないとか、回数券を喜志駅でしか買えないといったことを解決するために、今年度、待合のようなものを作る予算が付いたが、もし観光客を呼び込むことができているのなら、そこがその働きをする形で運営するようなことは考えていないか。

事務局 今の話のとおり、上ノ太子駅のほうに金剛バスがバスの待合所というか、休憩所といったものの設置を考えており、それに対して町も一定の支援をさせてもらう計画がある。この計画については、現在その土地の地権者と話をさせていただき、前向きに話を進めているところである。詳細については、金剛自動車と地権者とともに進めていくことになるのだが、今年度中にはそうした休憩所を設ける予定である。そこで町としても、金剛自動車と話し合いをさせてもらい、観光に來られ方に対してPRしていけるような場所として使わせてもらいたいとい

う協議もしているところである。

西田委員 どのバス停でどれだけ乗っているといったデータ上の結果を示すだけでなく、現在動いている取り組みの状況、何がどのように進んでいるかといった情報もこの場で示してほしい。例えば、運賃の支払いにおいて、小銭を出して、チケットや回数券も用意するといったことは本当に面倒だということで、それを改善するためにICカード化を進めようと、金剛バスを使っている自治体が集まって、各自治体が少しずつ負担して、バスに設備を載せようという話が進んでいるといったことも、ここで知らせてほしいと思う。単に利用実績の数値だけを伝えればよいのではないということは、共通認識としてほしいので、よろしくお願ひしたい。

高谷委員 観光関係について述べると、太子町の主な観光は5つの御陵と二上山であるが、それを回る路線がない。万葉の森のところが、ちょうど二上山の登り口であるので、そこまでバスが通れば、車を使わない人にとっては一番便利なルートになる。だから、万葉の森と5つの御陵を回る路線など、観光客の足となる路線を、金剛バスが無理であるなら、コミュニティバスで土日に運行するなどを検討してはどうか。

小川会長 買い物バスもそうだし、観光を意識したバス路線の検討もそうだが、特に土日に需要が偏らない観光によるまち起こしができれば、それは太子町にとって最も望ましいことだと言える。ただ、太子町の観光がそのレベルまで上がってきていないので、まずは土日祝における観光客を地域公共交通でしっかりと受け止めたいということであれば、コミュニティバスの土日祝の路線とダイヤにメスを入れていかないといけないと感じる。データを見ても、月曜から金曜までは通勤・通学、その他の利用があると思うが、土日はまた違うニーズや使い方があると思うので、土日祝については、町民の移動をサポートする目的ではなく、町外から来られた方に町内を動いてもらうために便利な運用にするというくらいの発想の転換が必要かもしれない。そうしたことも含めて、今後検討していければと思う。

今の説明は、金剛バスの利用実態調査結果ということなので、次の議題のコミュニティバスの実績評価の話も踏まえて、また考えていきたいと思う。

(5) コミュニティバス運行実績について

(資料4に基づいて、事務局より説明)

事務局 ここで、事務局から一つ提案をさせていただきたい。今、太子町の公共交通では、利便性の確保の目的で、乗継割引券を発行している。バスからバスに乗り継ぐ際に使える割引券で、利用可能な場所は、太子町役場と聖徳太子御廟前の2カ所のバス停となっている。割引の内容は、バスからバスに乗り換える場合、2路線目が160円割引されるというというもの。この利便性をさらに高めるために、太井川のバス停で乗り継ぎの際にも割引券を利用できるものとするを、今事務局で検討しており、これについてこの場で提案させてもらいたい。

小川会長 コミュニティバスの運行実績の説明と、太井川のバス停で乗継割引券の利用を可能にする提案であった。これらについてご意見等があればお願いしたい。

西田委員 乗継割引券の利用場所が増えるのはよいことだと思う。利用場所として太井川のバス停を追加するということは、それだけこの利用者がある、あるいは希望者がいるということか。

事務局 現在、太井川のバス停のところを運行しているのは金剛バスである。金剛バスとの協議の中で、ここを割引券の利用場所として追加することで、利用率を上げていこうということになり、提案させてもらった。

西田委員 乗り継ぎの待ち時間が問題になると思う。役場前であれば、様々な路線が通っているんで、待ち時間も少ないと思うが、乗り継ぎの待ち時間が1時間もあるとしたら、割引券があっても実際には使えない。そういう乗り継ぎ時間については、きちんと整えられているのか。

事務局 乗り継ぎ時間については、時間帯によって異なるので一概には言えないが、太井川のバス停では長くても20分待ってもらえれば、別の路線に乗り換えてもらえることは確認している。

西田委員 使える場所が増えるのはよいことだと思う。ただ、20分が長いかわりかは別として、雨が降っているとき、寒い・暑いときにそのバス停で待ってられるかどうか。バス停に屋根などはあるのか。多かれ少なかれ待ち時間があると思うので、そこで時間を過ごせるような配慮をお願いしたい。

小川会長 割引券が使える場所として、太子町役場、聖徳太子御廟前に太井川が追加されるわけだが、もしここで乗り換えできたら便利だというようなところが、追加で他

にあれば、お聞きしておきたい。北野委員は、何か意見はあるか。

北野委員 乗り継ぎ場所として太井川が1カ所増えることはありがたいが、理想的にはどこでも乗り継ぎできるのがよい。もしバスが遅れたり、何かあった場合に、他のバス停でも乗り継ぎできれば、お客さんも目的地にきちんとたどり着ける。だからお客さんから問い合わせがあったら、また議題に上げてバス停を追加してもらえたらありがたい。

小川会長 3つ目の乗り換え駅として太井川を追加するのはよいが、バスの運行時間のズレなどもあるので、乗り換え駅により幅があるほうが、さらに便利になるという話であった。確かに、資金の問題と手間の問題さえクリアできれば、どこでも乗り換えられるほうがよいというのは一つの考え方だと思うが、それについて意見があればお願いしたい。

斧田委員 バスの利用者は実際のところ高齢者が多いと思う。それでどこでも乗り換えられるというのは、あまりにも自由すぎて、逆にわかりにくいかもしれない。利用者側とすれば、ここで乗り換えればバスが確実に乗り継げることがわかるほうが便利であるという考え方もあると思う。

小川会長 利用者はおそらくどこで乗り換えるのがベストかはわかっているのだが、何かの拍子でダイヤがずれたときに、隣のバス停で乗り換えるといった緊急対応的なことができるとよいのかもしれない。前にも会議で話題になったことだが、町内の方はどこから出発してどこに行くかというOD（起点～終点までの交通量）はだいたい決まっている。そうした中で、自由に乗り換えができれば、より融通が利くような気がした。

太井川を乗り換え拠点にすることに異議はないと思うので、それをさらに推し進めるか、まずは太井川を追加して様子を見るかという選択肢になると思う。特に意見がなければ、まずは太井川を3つ目の乗り換え拠点とすることでよいか。

(委員より、意義なし)

小川会長 では、3つ目の乗り換え拠点を追加する方向で進めることになるが、これはいつから乗り換えできるようになるのか。それとこの乗り換え拠点について、どのように周知していくのか。

- 事務局 周知の方法としては、広報に掲載したり、現在走っているコミュニティバスや金剛バスの中に掲示したりといったことを行う。
- 小川会長 時期はいつからか。広報に書かなければいけないと思っているが、もう先行して8月から始めるのであれば、バス内の掲示による周知を進めて、広報には後追いの追記して、すでに8月から開始していることを記載する形になると思う。
- 事務局 事務局としては、新しい乗り換え拠点は8月から開始することとして、バス内での周知を先に行っていき、広報には9月号に掲載する形とさせてもらえればと考えている。
- 小川会長 では、8月1日から太井川でも乗り換えができるという案内を、バス内での掲示など可能な範囲で行ってもらい、また9月の広報で、今日の交通会議の内容の記事を私が書くので、1カ月遅れになるが、その中で乗り換え拠点追加についても触れる形にしたいと思う。
その他に、事務局から説明のあった内容について、意見等があればお願いしたい。
- 高谷委員 コミュニティバスの利用促進を考える上で、70歳から対象になるバスの利用券の活用があると思う。これは70歳から申請できるもので、毎月70歳になる人がいると思うが、その人たちに対して、利用券の案内はどのように行っているのか。個々に案内を出したりしているのか。
- 事務局 ホームページで、こうした公共交通の支援制度について周知させてもらっている。時刻表にも、70歳以上になると利用できることを記載している。
- 高谷委員 私が聞いているのは、そういうことではなく、毎月70歳の誕生日が来た人に対して、利用券のお知らせと申請書を送付するような、痒い所に手が届くような対応をしているかということ。
- 事務局 していない。
- 小川会長 もし仮に対象者に申請書を送るとしたら、対象者は月に何人くらいいるのか。
- 子安委員 年間で200名程度である。だからそれを12で割った数が、ひと月当たりの人数になる。

- 高谷委員 ひと月に15人から20人程度であれば、そうした案内の送付をしてほしい。
- 小川会長 可能であれば、それは一つの方法として考えられると思うが、その辺りはどうか。
- 事務局 事務局としては、広報などを通じて広く周知していきたいと考えている。
- 小川会長 それは郵送代や手間がかかるから難しいということか。
- 事務局 郵送代のこともあるが、基本的には広報を通じて制度を示し、申請の様式はホームページ等で確認いただくような形で、広く周知させてもらいながら、個別に申請してもらいたいと考えている。
- 小川会長 70歳になった方に対して、何か別の書類を送付するようなことはしていないか。もし、すでに70歳のタイミングで送付している書類等があるのであれば、バスの利用券の書類も同封してもらおうのが、一番簡単な方法だと思うのだが。
- 岡崎委員 ホームページで周知するとのことだが、70歳以上の場合、ホームページのことをよくわからない方が多いと思う。だからやはり書類を送付するなどして、知らせてもらったほうがよいと思う。
- 小川会長 高齢者がすべてネット弱いわけではないが、相対的に言うと紙媒体のほうが馴染みがあると思うので、書類の送付やチラシの配布のほうがわかりやすいだろうと思う。
- 西田委員 広報には、月ごとのお知らせ事項を掲載している欄があるが、この利用券のことを毎月載せ続ければよいと思う。また、役所から住民に書類を送る機会は何かしらあると思うので、そこにこの案内を入れることはできると思う。
- 小川会長 今の西田委員の発言に関連して、私も聞きたいのだが、広報で周知するというのは、年1回の掲載なのか、それとも毎月掲載し続けるのか、どのように行っているのか。
- 事務局 様々なパターンがあるが、その時期に応じて各種の情報を提供している。今、西田委員の発言を聞いて、そうした広報の利用方法も可能かもしれないと感じた。
- 小川会長 広報も紙面幅の関係があると思うが、毎月は無理でもできるだけ掲載の頻度を

高くしてもらうのも、一つの方法だと思う。それから、役所から 70 歳になった人に何かの書類を郵送することがあるのであれば、そこに利用券の案内を同封するのが、一番シンプルな形だと思うので、どこかの部局でそのようなことを行っているかどうかを調べてもらいたい。

事務局 参考までに申し上げると、利用券の申請者だが、70～74 歳の方の 4 人に 1 人が申請しており、75～85 歳は 2 人に 1 人が申請しており、ほぼ必要な方は申請しているのだと思う。それでこの制度は周知されていると思うのだが、利用券を発送するのに 1 週間から 10 日ほどかかるためか、70 歳になる前に申請に来る方がたくさんいる。しかし 70 歳になってからしか発行できないので、誕生日に合わせたタイミングで郵送している。子安委員から話があったとおり、毎月 20 名弱くらいが 70 歳の誕生日を迎えている計算になるが、実際に 70 歳以上の方が毎月 10 名ほど新規に申請に来られているので、ある程度周知されている、制度が浸透してきていると考えている。もちろん他の周知の方法も必要だとは思っているので、今提案いただいた内容などについて、他の課と連携しながら調べてみて、可能なものから取り組んでいければと思う。

小川会長 ぜひお願いしたい。

(6) その他

西田委員 広報の会長のコラムを楽しみにしているが、今月から毎月掲載されるのか。

事務局 それについては、会長と相談していきたい。以前にも会長から、広報は公共交通を PR する機会になるので、積極的に記事を書いていきたいと提案されており、町としても公共交通の関係については予算を取りながら、計画的に事業を進めているところである。広報の紙面については、毎月、紙面計画というものもあるので、そうしたことも含めて、会長と相談しながら進めていきたい。

小川会長 いずれにせよ 8 月号には間に合わないので、今日の会議の内容については、整理して 9 月号で紹介したいと思う。

高谷委員 コミュニティバスは、A 地域と B 地域で運賃が違うということがある。加えて、乗り継ぎでは乗継券を使い、70 歳以上は利用券を使うなど、非常に煩雑で使いにくいという声が、いまだに上がっている。A 地域と B 地域の運賃を同じにしてくれたら、利用しやすくなると思うので、検討をお願いしたい。

小川会長 その意見は以前よりお聞きしている。これについては金剛バスとの関係や運行距離の関係もある。もしこれを1つのゾーンにして1つの運賃体系にすると、現状で一方の区域のみを利用している方にとっては運賃が上がるようになってしまう。そうしたことの兼ね合いも含めた検討が必要になる。中には運賃が上がっても乗車の手間が減るほうがよいという方もいるかもしれない。その辺りの状況を確認しながら検討していきたいと思う。

他に意見がなければ、私から一つご提案というか、お話ししたいことがある。私は大学では交通の研究だけでなく、観光の研究もしており、交通と観光の両方でゼミを持っていて、今は観光の研究のほうをメインにしている。今、ゼミに所属している3年生が20名おり、その半分の10名が太子町をフィールドに調査をしている。その学生たちに課しているミッションが、地域公共交通を利用した太子町のまち歩きコース作りである。そして、そのコースを自分たちでガイドができるように勉強をして、できれば年内の10月か11月くらいの季節のよいときに、最低でも1回はイベントを開催することを目指している。具体的には10~15人くらいの規模で、太子町のってこバスと金剛バスに乗って、太子町の歴史・文化スポットを訪れながら、太子町および隣接する市町村の特産品にも触れるフードツーリズムを実施するというテーマで、学生たちが検討を進めているところである。ちょうど2週間前の水曜日の午後にも学生たちと道の駅を訪れて、デラウェアを味わい、またシャインマスカットの時期にも来ようかなどと話していたところである。太子町には、太子みそや最中、みかんやみかんソースなど様々な特産品があるので、太子町に電車で来て、バスでまちを巡りながら、歴史・文化、景観を楽しみ、途中の昼食やおやつの時間に太子町の食べ物を味わう、3~4時間くらいのツアーを考えている。考えるだけでなく実行しなければ意味がないので、参加者を募集し、学生が案内をして、最後にアンケートに答えてもらって、そのアンケート結果が学生の成績になるというゼミである。また委員の皆さんには助けてもらうこともあると思うので、よろしくお願ひしたいと思っている。コロナ禍で第7波が来ているとも言われているが、そうしたイベントを行いながら、様々な人たちにバスに乗ってもらい、その結果、人々がどう感じたかなど、町内はもちろん町外にも発信し、注目されるというのも、一つの重要なポイントになるのではないかと考えている。

それからもう一つ、モルックというスポーツをご存知だろうか。フィンランドの投てき競技で、木の棒を投げて木製の12本のピンに当て、倒したピンの合計点数が50点になることを競う競技である。最近、若い人の中でとても流行っており、私も半年くらい前から始めて、全国大会にも行ってきたが、ぼろ負けで帰っ

てきたりしている。それで毎日大学で練習していたら、学生が集まってきて 20 人くらいのサークルができた。その学生たちが体験会をしたいと考えて、地元の大東市の芝生のスペースや、駅の下グラウンドなどを利用して、自分たちで体験会を開催しているのだが、そのサークルメンバーでゼミ生でもある学生が、この道の駅の奥のスペースでモルックの体験会をできないかと考えた。自転車やバイクで道の駅に来る人はもちろん、バスで来る人にも参加してもらえるようにしたらどうかというアイデアで、確かに土日祝の道の駅へのバスの便がある時間帯に体験会を開催したら面白いのではないかと、私自身も考えている。この 10 月 1 日 2 日に泉佐野市でモルックの全国大会があり、私は副実行委員長として走り回っているところだが、スペースさえあれば誰でもできる簡単なスポーツなので、もしよかったら皆さんも一度調べてみていただけたらと思う。こちらでも 10 月か 11 月くらいの土日を想定しているが、大阪府の許可が必要なので、そうしたことが可能かどうかも含めて検討していきたいと思っている。何かこういう面白いことを行って、そのついでにバスに乗ってもらい、その結果金剛バスやのってこバスの良さを知ってもらって、それが話題になっていけばと考えている。

先週の日曜日まち歩きの企画で太子町を歩いた。参加者が 10 名くらいいて、そのほとんどが太子町のことをよく知らない方々で、上ノ太子駅からバスに乗って御廟前で集合した。それで皆さんが言っていたのが、金剛バスの運賃は安いということ。大阪市内や北摂だったら、もっと高いという話だったので、それも情報として伝えておく。上ノ太子駅から御廟前までの運賃が 180 円である。私が住んでいる西宮のバスは、料金一律で、どの距離で乗っても 220 円である。やはり 100 円台で乗れるというのは、安い印象なのだと思う。そういうことも、いろいろな方に乗ってもらうことで、周知されていくと思う。私は今お話ししたようなことを実施していく準備を進めているが、今後もバス乗車イベントのようなものは実施していくほうが絶対によいと思う。コロナが完全に消えるのを待っていると、何年も先になってしまうので、ウィズコロナの状態で行っていかないといけないと思うので、一定コロナに気をつかいながら、公共交通会議で議論をして、できることから取り組んでいきたいと考えている。

私は、専門家としての観点から定期的に太子町のことを調べてきたが、太子町は生活と交通と観光を一体化していくことが、最大の課題であると考えている。この会議では、観光の話や福祉も含めた生活・暮らしの話も議論するのだが、西田委員が参加しておられる、観光まちづくりの会議では、あまり交通の話が出てきていないように思うので、観光のセッションの会議でも、もう少し交通のことを取り上げていただければと思う。太子町には、これだけの路線があり、これだけのバスが走っているということは一つの大きな特徴だと思うので、観光サイド

からも交通のことに関心を持ってもらうことは、政策を考える上で有効だと思う。太子町では、公共交通は町民の生活を支えるものだが、同時にこのまちの地域特性から観光の側面も無視できないと思うので、この会議でも福祉を含めた生活と交通、および観光が一体化できるような議論をしていきたい。

事務局には今後のスケジュールを教えてほしい。と言うのは、先ほどの買い物バスの課題の整理など、種々の宿題が出ていると思うので、次の会がいつくらいなのかを皆さんに共有してもらったほうがよいと思う。

事務局 次の会議だが、先生から提案のあった大学生によるバスを利用した取り組みの結果も教えていただきたいということもあるので、年内には開催したいと考えている。今回の会議に上がった様々な課題も整理して、次回の会議で改めてお示ししたい。

小川会長 年内に1回、年明けにもう1回ということか。では、12月だと慌ただしく、10月だと早すぎるので、11月くらいがよいだろう。それから年明け2月末から3月上旬くらいにもう1回開催する形になると思う。

バスが走り出す前までは、様々な意見を出し合い、試行錯誤しながら取り組みを進めていくのだが、一定走り出すと、会議でもその報告を聞くことに終始してしまいがちになる。しかし、よりよいものにしていくには、課題を抽出し、それをつぶしていくことを行っていかないと、前に進まないように思う。だから年3回の会議では、もちろん報告事項もあるのだが、審議事項をできるだけ設定して、課題を解決に向けて取り組み、一層の改善を目指していけるよう、皆さんにもよろしくお願ひしたい。

以上で、第1回地域公共交通会議の議事を終了する。

以上